

焼津市
総合計画（基本計画）に関する市民意識調査
調査結果報告書

平成 29 年 3 月

焼 津 市

目 次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査内容	1
3. 調査設計	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	2
6. 性年代別補正	2
7. アンケートの精度	3
II 調査結果	5
1. 対象者の属性	5
1) 性別	5
2) 年代	5
3) 子どもについて	6
4) 職業	6
5) 就業場所	7
6) 焼津市以外での居住経験	7
7) 居住地区	8
8) 居住形態	8
2. 市政全般について	9
1) 焼津市の暮らしやすさ	9
2) 焼津市の行政サービスの満足度	9
3) 行政サービスに満足していない理由	10
4) 市職員の応対の満足度	10
5) 市の情報の入手手段	11
6) 必要と思う市の情報は十分に得られているか	11
7) 市民の意見が行政に届きやすいか	12
3. 自分や家族、地域の状況について	13
1) 心身共に健康か	13
2) 健康のために心掛けていること	14
3) 「さかな」を食べる頻度	15
4) かかりつけ医やかかりつけ歯科医の有無	15
5) かかりつけ医やかかりつけ歯科医の場所	16
6) 焼津市の医療体制について	16
7) 居住住宅の満足度	17
8) 地球環境への負荷を低減するための行動の実践	18
9) 過去1年間の文化・芸術に関する活動について	19
10) 日頃の学習活動の取り組み	19
11) 学習活動で得た成果の活用	20

12)	第五福竜丸事件について	20
13)	過去1年間での核や平和に関する事業やイベントへの参加	21
14)	過去1年間のスポーツの経験	21
15)	過去1年間のスポーツの頻度	22
16)	スポーツをする理由	22
17)	スポーツへの興味	23
18)	スポーツをしなかった理由	24
19)	過去1年間の近所との助け合いの程度	25
20)	まちづくり活動への参加	25
21)	消費者被害にあわないために心がけていること	26
22)	「クーリングオフ」制度の認知度	26
23)	犯罪にあわないようにするための日常生活での取り組み	27
24)	地域での防犯活動への参加	27
25)	市内の道路を徒歩や自転車で通行するときに安心して快適に通行できるか	28
26)	身近な生活道路を車やバイクで移動するときに円滑に通行できるか	28
27)	市内の幹線道路を車やバイクで移動するときに円滑に通行できるか	29
28)	日頃交通ルールとマナーを守っているか	29
29)	市内のバスは利用するのに便利と思うか	30
30)	市内のバスが便利ではないと思う理由	30
31)	市内のバスの利用頻度	31
32)	市内の駅は利用しやすいと思うか	31
33)	市内の駅が利用しにくいと思う理由	32
34)	周囲の状況	32
35)	身近な商店街にぎわいを感じるか	33
36)	消費者の視点からみた身近な商店街がぎわっていない理由	34
37)	市内の水道水の安全性について	35
38)	地域で衛生的な生活ができているか	35
39)	身近に花や緑が多いと思うか	36
40)	住んでいる地区は良好な街並みだと思うか	36
41)	住んでいる地区が良好な街並みではないと思う理由	37
42)	市内の公園の満足度	37
43)	公園について満足していない理由	38
44)	焼津市は自然が豊か又はキレイだと思うか	38
45)	焼津市は安心して子どもを生み育てることができる町だと思うか	39
46)	焼津市は人権問題に関する意識が高いまちであると思うか	39
47)	まわりに認められ（人権が）尊重されていると思うか	40
48)	「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方	40
4.	防災について	41
1)	発災が予想されている巨大地震が起きた場合に特に心配に思うこと	41
2)	自主防災会や消防団等の活動の認知度	42
3)	焼津市が災害に強いまちづくりに取り組んでいると感じるか	43

4) 災害に強いまちづくりのために市が今後重点的に取り組んでいくべきこと	44
5) 災害に対する備え	45
6) 災害に備え、市民として今後特に取り組んでいく必要があること	45
5. 特定の方について	46
1) 就労環境の満足度	46
2) 就労環境について満足あるいは満足していない理由	47
3) 自分の子どもが物事を見たり聞いたりして感動すること	48
4) 障害のある人の現在の生活の満足度	48
6. 焼津市の広報活動について	49
1) 市の広報活動について	49
2) 広報やいづの内容について	50
3) 市のホームページを見て、必要な情報を得ることができたか	51
4) やいづ市議会だよりを読んだことで市議会への関心がもてたか	51
5) 男女共同参画情報紙「Aしおかぜ」で男女共同参画社会形成の必要性の理解ができたか	52
6) 年金広報紙『みんなの国民年金』を読んで国民年金制度が理解できたか	52
7) 『国保だより』を読んで国民健康保険制度が理解できたか	53
8) 市発行の市民カレンダーが世帯にとって役立っているか	53
7. 第5次総合計画の将来都市像を実現するために取り組んでいる32の施策	54
1) 今後市が取り組む優先度について	54
2) 課題を解決するための役割分担について	55
III 自由意見	57
IV 施策の評価指標	73
V 資料編	77
1. クロス集計	77
2. 調査票	140

I 調査概要

1. 調査の目的

「第5次焼津市総合計画」に掲載している施策の現状水準の把握と、政策の優先度及び施策に対する行政関与の意識を調査することにより、今後の施策の優先順位付けのための検討資料とすることを目的としました。

2. 調査内容

- 1 対象者の属性
- 2 市政全般について
- 3 自分や家族、地域の状況について
- 4 防災について
- 5 特定の方について
- 6 焼津市の広報活動について
- 7 第5次総合計画の将来都市像を実現するために取り組むべき 32 の施策について

3. 調査設計

- 1 調査地域：焼津市全域
- 2 調査対象：平成 27 年 4 月 1 日より継続して居住している焼津市在住の 18 歳以上の男女
- 3 標本数：3,000 人
- 4 抽出方法：住民登録している者及び外国人登録している永住者、または特別永住者等から等間隔無作為抽出
- 5 調査方法：郵送調査
- 6 調査期間：平成 29 年 1 月 13 日～平成 29 年 2 月 6 日
- 7 調査機関：(株) サーベイリサーチセンター静岡事務所

4. 回収結果

- 1 発送数：3,000 人（100.0%）
- 2 回収数：1,822 人（60.7%）
- 3 有効回収数：1,816 人（60.5%）

※有効回収数は、回収はされたが記入のない調査票を除いて集計した数です。

5. 報告書の見方

百分率は小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならないことがあります。また、1つの質問に2つ以上答える「複数回答」の場合、比率の合計が100%を超えることがあります。

第3章自由意見は、調査票に記入された内容をほぼ原文通り記載しています。

6. 性年代別補正

市民アンケート回収結果については焼津市全体の「性・年代」別人口（母集団）からの偏りを補正計算して調査結果としています。

焼津市全体の 「性・年代」別人口（※1）	回収		補正後	
	数	割合（%）	割合（%）	割合（%）
男性 10代（18・19歳）	1,395	16	1.9	2.4
男性 20代	6,873	51	6.1	11.8
男性 30代	8,220	98	11.7	14.2
男性 40代	10,662	138	16.4	18.4
男性 50代	8,835	137	16.3	15.2
男性 60代	10,093	217	25.8	17.4
男性 70代以上	11,933	183	21.8	20.6
男性合計	58,011	840	100.0	100.0
女性 10代（18・19歳）	1,306	16	1.7	2.1
女性 20代	6,437	67	7.0	10.6
女性 30代	8,022	89	9.3	13.2
女性 40代	10,007	159	16.5	16.4
女性 50代	8,528	162	16.8	14.0
女性 60代	10,910	260	27.0	17.9
女性 70代以上	15,725	209	21.7	25.8
女性合計	60,935	962	100.0	100.0
無回答（※2）		14		
合計	118,946	1,816		

※1 平成27年4月1日より継続して居住している人の平成28年12月31日現在住民基本台帳人口及び外国人登録人口です。

※2 「無回答」は性別または、年代の設間に回答していない方です。

7. アンケートの精度

この調査は単純無作為抽出により対象者を定めたもので、標本誤差は次式で近似できます。

$$\sigma = \kappa \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

σ : 標本誤差
 N : 母集団
 n : 標本の大きさ
 P : 回答比率

変数 κ は信頼率により決まり、信頼率 90%ならば 1.64 とされます。

回答者総数（1,816 人）を 100%とする場合の質問で、信頼率を 90%とすると、各回答比率別の標本誤差は以下の通りとなります。

回答比率	標本誤差
50%	±1.91%
60%または40%	±1.87%
70%または30%	±1.75%
80%または20%	±1.53%
90%または10%	±1.15%

これは、例えば今回の調査においてある設問を単純集計した場合、その設問の「A」という回答が全体の 50%であったとすれば、今回の調査の母集団（18 歳以上の焼津市民全体：118,946 人）に同じ設問をしても、統計学的には 90%の確率で「A」の割合は、 $50 \pm 1.91\%$ の範囲内となり、精度は確保されていると言えます。

